

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2024年6月号

# 森のおくりもの6

NO.393 The Gift from Woods

セアカツノカメムシ (ツノカメムシ科)



脚は透明感のある黄色から黄緑のグラデーション、背は濃緑色に赤茶色とキレイですね。カメムシの果樹への被害を耳にすることもあります。すべての種類が悪さをするわけではありません。生物多様性、多様な生物を保全する自然観察の森では殺生は禁止されていますから、観察したら必ず、絶対に元いた場所に戻してくださいね。

【館長：佐藤由美】

## 森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

### 『覆水不変（覆水盆に返らず）』

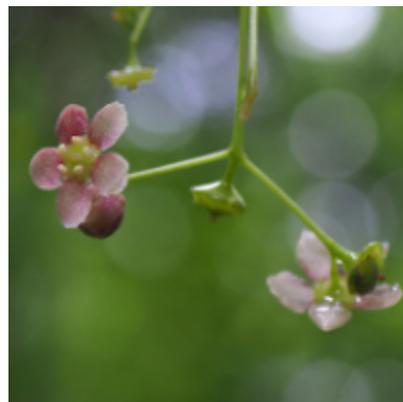
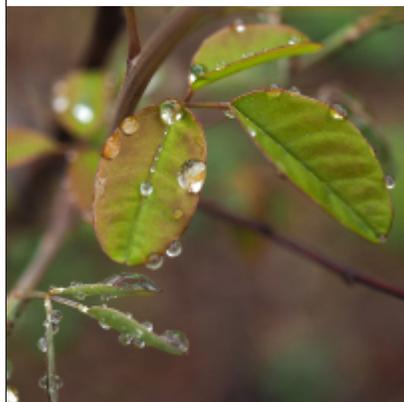
森の樹木の葉がすっかり深緑になると、そろそろ梅雨を迎える頃だと感じます。雨の水滴の光景が美しい季節です。東北南部の平年の梅雨入りは6月12日頃ですが、今年はどうなるでしょうか。期間と降水量が十分だといいいのですが…。冬の雪不足に加え、雨もあまり降っていないので、ダムの貯水量が低いなど各地で水不足が懸念されています。観察の森を歩いても乾燥しているように見受けられるので、水不足が解消されて欲しいです。

しかし、災害が起こるほどの大雨になってしまうと困ります。この時期は、前線や台風により線状降水帯が発生して大雨が降り、様々な被害をもたらすことが予想されます。近年、気候変動や温暖化などの影響が、気象に関する災害の要因となっていることが気になります。このままでは取り返しのつかないことになるかと自然が警告を発しているように感じます。

中国の故事に『覆水不変』があります。「覆水盆に返らず」といい、「器をひっくり返してこぼした水は二度と元通りにはできないように、夫婦の関係も元には戻らないということから転じて、一度起きたことは元に戻すことができないというたとえ」の故事成語です。

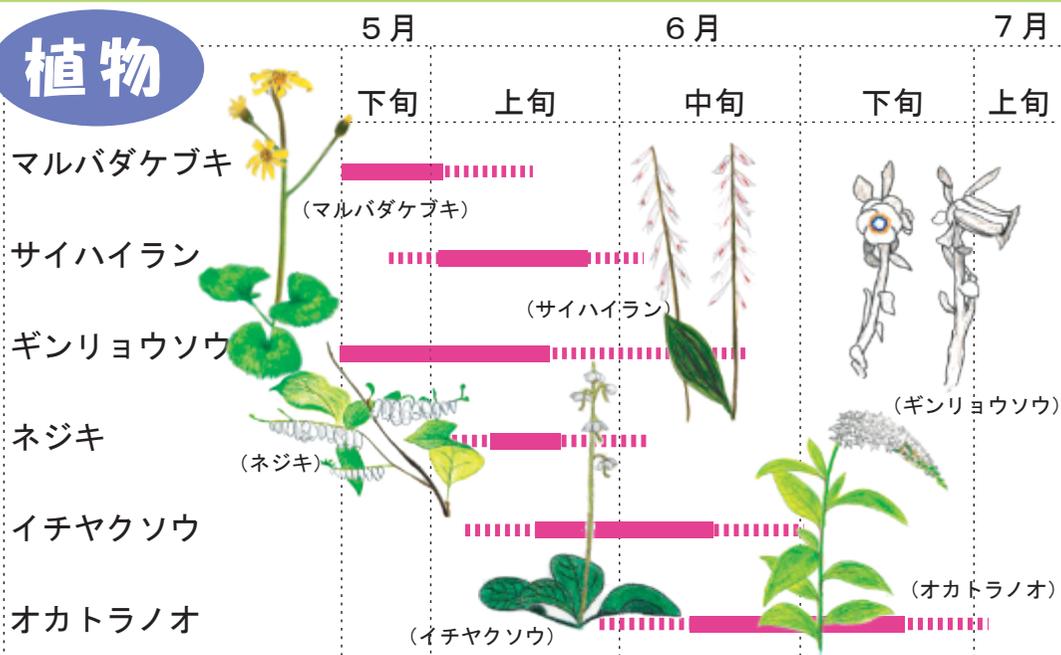
年々、降雪量が少なくなり植物の開花など早まっています。様々な自然の異常に気付いていますが、どうしたらいいのかわかりません。自然は、一度壊してしまうと二度と元には戻せず、簡単には以前と同じようにはならないので、取り返しのつかないことになる前に、何とかしなければと思うばかりです。

「こうなるとわかっていたら…」と思うことがたくさんありますが、そうやってみないとわからないものです。タイムマシーンがあったら過去に遡り、昔の自分にアドバイスがしたいと思ってしまう。そうなるとこの言葉に説得力を感じず、教訓として共感できなくなりますね。【レンジャー：新田隆一】

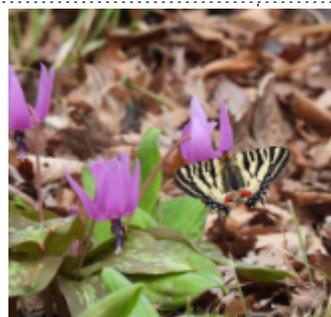


# 6月の生物ごよみ

## 植物

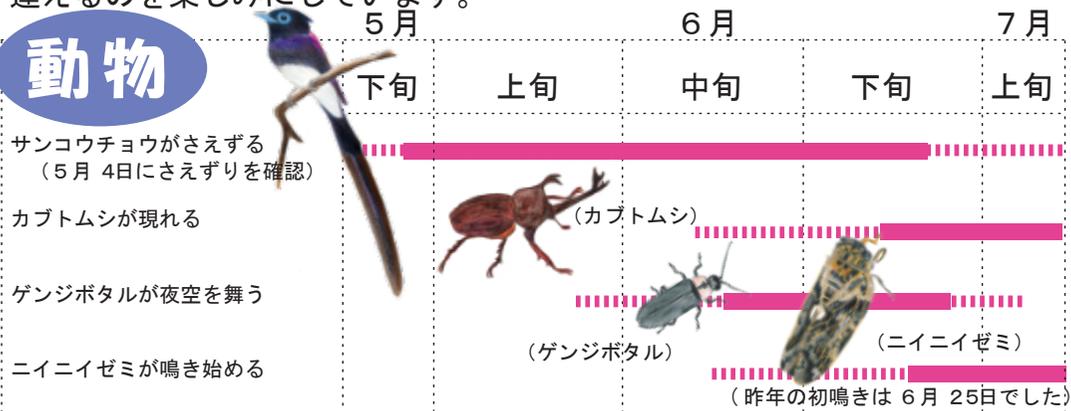


数年前からヒメギフチョウの累代飼育をしていて、今年約60匹ほどの卵を採取して蛹にまですることが出来ました。ヒメギフチョウは年1回早春に発生するチョウで、幼虫はトウゴクサイシンの葉を食べながら成長します。6月初めには蛹になり、蛹のまま来春まで過ごし、カタクリが咲くころその美しい姿を見せてくれます。最近では自然発生も少しずつ見られ、うまく定着してくれればと思っています。また来年もヒメギフチョウに逢えるのを楽しみにしています。



カタクリにとまるヒメギフチョウ

## 動物



【レンジャー：齋 正宏】

※さえずり 繁殖期や縄張り宣言の時に出す鳥の美しい鳴き声。ただしさえずりと地鳴きの明確な区別はなく、一般的に複雑で長い鳴き声を「さえずり」と呼んでいる。

# 森の「あれこれ」



## 「オオタカかと思ったら」



先月「バードウォッチング・カフェ」という探鳥会を行いました。樹の葉が茂って野鳥の姿が見えない時期、ならばゆっくりコーヒーでも飲みながら野鳥のさえずりを楽しもうというイベントでしたが、実際は開始早々目の前にメジロがあらわれたり、タカの仲間が出たり、最後にはサンコウチョウも出現し、コーヒーどころでなく全然優雅になりませんでした(笑)。



さてその時出現したタカの仲間について(左上の写真)、当初私はオオタカと判断したのですが画像を拡大してみると(左中)翼の模様など明らかに違います。左下がオオタカです。タカに詳しい人は翼の形状や尾羽、顔の模様も見分けるでしょう。正体は「ハチクマ」でした。



ハチクマはその名の通りハチが好物。東南アジア方面から子育てのため日本にやってくる夏鳥です。以前NHKの「ダーウィンが来た」でスズメバチの幼虫や蛹を食べているのにハチにそれほど攻撃を受けないという不思議な生態が紹介されていました。確かハチクマの皮膚や羽毛がハチの毒針を通しにくかったり、また体からハチの攻撃を抑制する物質を出したり…そんな内容だったと思います。

こんなおもしろい生きものがこの観察の森に来ているのですね。ここが渡りのコースになっているのでしょうか？それとも人知れず森のどこかでスズメバチとやりあいながら懸命に子育てをしているのでしょうか？なんかワクワクします。

来年の「バードウォッチング・カフェ」でまた飛んでくれないかな～。

【レンジャー：木田秀幸】

## ・ 森は生きている！ ・



生き物たちの中には、相手の足りない点を補い合いながら、生活している生き物たちがいます、そのような形を共生と呼んだりするのですが、その中でも大きく分けて、双方に利益があることを相利共生、片方にのみ利益があることを片利共生といい、寄生も含まれることがあります。

観察の森では様々な共生をしながら生活している生き物があります、例えばギンリョウソウ（銀竜草）という植物があります、別名ユウレイソウとも言われます、まるでムーミンに出てくるニョロニョロに似ているのですが、このギンリョウソウは葉が退化して、光合成を行いません、どのようにして養分を得ているかという、と、土壌のベニタケ類などの菌類と共生した根（菌根）を形成して、そこから栄養を得ているそうです。

さらにその菌類も他方では樹木から菌根を形成して共生しているので、菌類を仲介して間接的に樹木から栄養をもらっていると言われてます。

見た目がキノコなどの菌類に似ているのですが、れっきとした植物でツツジ類の仲間になります、蜜はマルハナバチなどの昆虫が吸いに来るのですが、花が終わると果肉と多数の微小な種を含む実ができ、それを昆虫が食べに来るそうです、その昆虫の糞の中に種が残り、子孫を残す仕組みなのですが、よく食べにくる昆虫というのが、森のイメージにあまり似合いませんが、ヤマチャバネゴキブリというゴキブリの仲間が多いそうです、ゴキブリがいない地域ではカマドウマも種を食べるそうですが、ギンリョウソウは菌類等から栄養を取り、ゴキブリによって子孫を増やすという見た目も不思議な生態の植物です。

また、ラン科のギンランなどの花も年々数が減っており、絶滅危惧種に指定されてますが、違法な盗掘等により売買の対象となっています、ギンランも菌類と共生して生きているので、植栽しても土壌が合わず生きていくことができません、このように生き物は何らかの形でお互い関係しあって生きています、何か欠ければ、やがてそれは無くなってしまいます。

森とはあらゆる生き物が集まった集合体のようなものです、ぜひ皆さんも観察の森へ来て様々な生き物たちと出会い、森の生命力を感じてほしいと思います。

【レンジャー：菅井 潤】

# 6月のイベント&お知らせ

## イベント



### ◆森のアート感さつ会「クモのアート」

- 【日時】6月22日(土) 10:00~12:00
- 【対象】小学3年生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】クモの網や体色の美しさなど芸術的な視点に注目して自然を楽しみ、クモのおもしろさを感じます
- 【持ち物】飲み物、帽子、かっぱ、虫除け薬、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】6月6日(木)午前9時より電話受付(先着)



### ◆夜の森の観察会

- 【日時】6月22日(土) 19:00~20:30
- 【対象】小学生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】ホタルや樹液に集まる昆虫など夜間に活動する生き物たちを観察しながら園内を歩きます
- 【持ち物】飲み物、懐中電灯、虫除け薬、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】6月7日(金)午前9時より電話受付(先着)



**ガイドウォーク** 毎週日曜日開催  
申込み不要、どなたでも参加できます

**開催日: 2日, 9日, 16日, 23日, 30日**  
**時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00**  
**※4月~11月は午前と午後実施します**

**休館日**



**3日, 10日, 17日, 24日**  
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

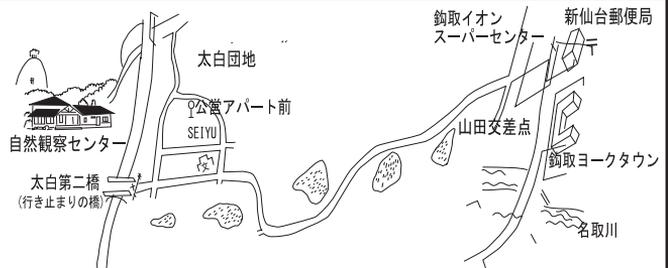
### 観察の森へのアクセス

#### 宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
  - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
  - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」  
※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」  
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

#### お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。  
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。  
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63  
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会  
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター